

「それでは如何に生きるべきか②」

ローマ 12:2

Ⅰ、この世に調子を合わせない

「この世」―「時代」とも訳せる言葉。

神に逆らう、悪に支配された「この世の流れ」の事

Ⅰヨハネ 5:19

「私たちは神からの者であり、世全体は悪い者の支配下にあることを知っています。」

「調子を合わせる」一定められたパターンや型に、内面ではなく外面で従い、仮面を被ったり演技をしたりする様子を表す
つまり、行動、発言などの外側が、世の型に押し込められて成型される状態

<世の、パターンとか型とはどういう意味でしょう？>

それは、この世のありとあらゆる考え方、価値観、行動、行いを示す。

「人の幸せとは何か」「何を大切にするのかしないのか」「どの様に子どもの将来を決めるのか」

「どんな仕事が尊敬され、良い仕事なのか」「どんな服装をしたいと願うのか」「何のためにお金を使うのか」「自分が自由となる時間を何に使うのか」「何が正義で何が悪なのか」「世の人とどこに出かけ、何をするのか」「どんな言葉遣いをするのか」

「この世と調子を合わせてはいけません」を「単語の意味」に注目して訳すと

「世のパターンや型に、あなたが押し込められてはなりません。世にならって、まるであなたがクリスチャンではなく世の人であるかの様に振る舞いながら、世で生きてはなりません」

Ⅰペテロ 1:14~16

「従順な子どもとなり、以前あなたがたが無知であったときのさまざまな欲望に従わず、あなたがたを召してくださった聖なる方にならって、あなたがた自身も、あらゆる行いにおいて聖なるものとされなさい。それは、『わたしが聖であるから、あなたがたも、聖でなければならない』と書いてあるからです。」

使徒の働き 26:17.18

「わたしは、この民と異邦人の中からあなたを救い出し、彼らのところに遣わす。

それは彼らの目を開いて、暗やみから光に、サタンの支配から神に立ち返らせ、わたしを信じる信仰によって、彼らに罪の赦しを得させ、聖なるものとされた人々の中であって御国を受け継がせるためである。」

ヤコブ書 4:4

「貞操のない人たち。世を愛することは神に敵することであることが分らないのですか。世の友になりたいと思ったら、その人は自分を神の敵としているのです。」

ヨハネ 7:7

「世は……、わたしを憎んでいます。わたしが、世について、その行いが悪いことをあかしするからです。」

ヨハネ 17:14~16

「わたしは彼らにあなたのみことばを与えました。しかし、世は彼らを憎みました。わたしがこの世のものでないように、彼らもこの世のものでないからです。彼らをこの世から取り去ってくださるようというのではなく、悪い者から守ってくださるようお願いします。わたしがこの世のものでないように、彼らもこの世のものではありません。」

ヨハネ 17:17

「真理によって彼らを聖め別ってください。あなたのみことばは真理です。」

詩篇 19:7

「主のあかしは確かで、わきまのない者を賢くする。」

Ⅱ. 心の一新によって、自分を変えていただく

「変えられ続けなさい」

「受け身」と「継続」の表現が使われている。そしてそれが「命令」として語られている。

「変わるのではなく、変えられる」のであり、それは「継続した働きである」ということ。

そして、それは神からの命令です。

「変えていただく」は、先ほどとは逆に、内側と外側の一致の話です。

内側の性質が外にきちんと現れてくるのです。内面から生じる外側の変化の話です。

この言葉は、新約聖書に4回出てきます。

ローマ書 12:2, マタイ 17:2, マルコ 9:2, II コリント 3:18

この内、マタイとマルコは主イエス・キリストの 山での変貌の記事です。

マタイ 17:1~3

「それから六日たって、イエスは、ペテロとヤコブとその兄弟ヨハネだけを連れて、高い山に導いて行かれた。

そして彼らの目の前で、御姿が変わり、御顔は太陽のように輝き、御衣は光のように白くなった。

しかも、モーセとエリヤが現れてイエスと話し合っているではないか。」

テトス 3:5

「神は、私たちが行った義のわざによってではなく、ご自分のあわれみのゆえに、聖霊による、新生と更新との洗いをもって私たちを救ってくださいました。」

ガラテヤ 6:14.15

「しかし私には、私たちの主イエス・キリストの十字架以外に誇りとするものが決してあってはなりません。この十字架によって、世界は私に対して十字架につけられ、私も世界に対して十字架につけられたのです。

割礼を受けているか受けていないかは、大事なことはありません。大事なのは新しい創造です。」

エペソ 5:18~20

「御霊に満たされなさい。

詩と賛美と霊の歌とをもって、互いに語り、主に向かって、心から歌い、また賛美しなさい。いつでも、すべてのことについて、私たちの主イエス・キリストの名によって父なる神に感謝しなさい。」

コロサイ 3:16.17

「キリストのことばを、あなたがたのうちに豊かに住ませ、知恵を尽くして互いに教え、互いに戒め、詩と賛美と霊の歌とにより、感謝にあふれて心から神に向かって歌いなさい。あなたがたのすることは、ことばによると行いによるとを問わず、すべて主イエスの名によってなし、主によって父なる神に感謝しなさい。」

「キリストのことば」とは聖書を示します。「住む」とは「家に住む」ことを表します。

パウロは御言葉を生活の中に住ませなさいと命令しているのです。

「豊かに」とは単なる豊かなのではなく、「途方もなく豊かに」という意味です。

私たちが、その御言葉を学ぶ時に、御霊なる神様が働いて私たちの御言葉の理解を深めます。

だからこそ、私たちは主の助けを祈り求め、主に祈りつつ御言葉を開くのです。

御霊なる主の助けをいただきながら、御言葉に従って歩む歩み。それこそが、御霊に満たされたクリスチャンの姿です。

Ⅱコリント 3:18

「私たちはみな、顔のおおいを取りのけられて、鏡のように主の栄光を反映させながら、栄光から栄光へと、主と同じかたちに姿を変えられて行きます。これはまさに、御霊なる主の働きによるのです。」

Ⅱコリント 3:14.15

「しかし、イスラエルの人々の思いは鈍くなったのです。というのは、今日に至るまで、古い契約が朗読されるときに、同じおおいが掛けられたままで、取りのけられてはいません。なぜなら、それはキリストによって取り除かれるものだからです。

かえて、今日まで、モーセの書が朗読されるときはいつでも、彼らの心にはおおいが掛かっているのです。」

Ⅱコリント 3:16.17

「しかし、人が主に向くなら、そのおおいは取り除かれるのです。

主は御霊です。そして、主の御霊のあるところには自由があります。」

Ⅱコリント 4:6

「『光が、やみの中から輝き出よ』と言われた神は、私たちの心を照らし、キリストの御顔にある神の栄光を知る知識を輝かせてくださったのです。」

ヘブル 12:2

「信仰の完成者であるイエスから目を離さないでいなさい。」

Ⅱテモテ 2:8

「死者の中からよみがえったイエス・キリストを、いつも思いでいなさい。」